

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUSS分科会 更新日 2012/6/15  
(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際土壌科学連合  
(欧文) International Union of Soil Sciences  
(略称) IUSS

日本学術会議加入年(西暦) 2003 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) IUSS Bureau

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Jae E. Yang		Kye-Hoon John Kim	Alfred Hartemink
(国)	Korea		Korea	Netherlands

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

1) 2014年までは、会長は次回の国際土壌科学会議の主催国から選出。4年任期。2) 2014年以降は、会長を選挙により選出し、任期は2年。次期国際土壌科学会議議長が副会長を務める。3) 事務局長・事務局次長等、事務局役員は国際土壌科学会議で選出され、再選可能。4) Commission, DivisionのChair, Vice-Chairは加盟国が推薦し、中間会議で決定。4年任期。

加入国・地域の数 69 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

アメリカ合衆国、イギリス、フランス、日本、オランダ、ドイツ、イタリア、カナダ、ロシア、中国、インド

国際学術団体のホームページURL <http://www.iuss.org/>

国際学術団体の年間運営経費 \$127,000

日本の分担予定額[事務局で記入] 421千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2010	第19回国際土壌科学 会議	Brisbane (Australia)	約2000名	約100名	無
2006	第18回国際土壌科学 会議	Philadelphia (USA)	2133	103	無
2005	日本学術会議公開シ ンポジウム	東京	90	70	共催
2005	国際土壌科学シンポ ジウム	ソウル(韓国)	150	5	無
2005	第1回国際砂質土壌 シンポジウム	Khon Kaen(Thailand)	200	10	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012	国際土壌科学連合 中間会議	済州島(韓国)	15	6名	3名
2010	第19回国際土壌科学 会議	Brisbane (Australia)	約40	3名	3名
2008	国際土壌科学連合 中間会議	Brisbane (Australia)	17	2名	0
2004	国際土壌科学連合 中間会議	Philadelphia (USA)	25	2名	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

- 1) 定期的(年 2 回) 主な出版物名 IUSS Bulletin
- 2) 不定期 主な出版物名 Proceedings of the World Congress of Soil Science (4年に1回)
- 3) IUSS Alert (ほぼ毎月)
- 4) 世界の主要な土壌科学関連の学術雑誌をIUSS認定の雑誌とする。Soil Science and Plant Nutrition (日本土壌肥学会欧文誌)は、第11番目の認定誌。

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<b>国際機関等の提唱で行った活動</b>
1) 世界の土壌図の作成を提唱し、FAO/UNESCOと協力して500万分の1のスケールの全世界土壌図を完成した。 2) IUGS/UNESCOなどと共催でPlanet Earth 活動に参加している。
<b>国際機関等への提言等</b>
1) 世界土壌憲章および世界土壌政策をそれぞれFAOおよびUNEPと協力して国際的に採択・実施させた。 2) 国際科学連盟ICSUと連携し科学研究と国際社会・政策への提言をまとめた。
<b>国際事業等への参加・実施等</b>
1) World Reference Base for Soil Resourcesの設定事業にFAOおよび国際土壌参照・情報センター(在オランダ)とともに参画、現在とりまとめ中である。 2) JICA専門家派遣事業や各国の国際協力事業への参加を推進している。
<b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b>
1) 世界的に土壌環境を保全し、農業生産を増進するための研究を行っている。 2) 地球環境変動に対する土壌科学の貢献をさらに拡充強化している。 3) 12月5日を「世界土壌の日」と制定し、世界に土壌資源の重要性をアピールしている。
<b>発展途上国への対応</b>
1) 発展途上国に対しては会費の減額などの優遇措置が取られている。また、大会への参加費の援助を行っている。 2) 途上国での問題土壌に関する国際シンポジウム活動を推進している。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

土壌は食糧生産の基盤であり、地球環境保全の基礎である。人口増加に伴う食糧不足と環境悪化はさらに深刻さを増しており、土壌科学の発展を通じて人類の繁栄に資することが今後の緊急かつ重要な課題である。

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
Division 2.3, Chair	犬伏 和之	2010	2014
Division 3.5, Vice-Chair	小崎 隆	2010	2014
Division 4.3, Chair	波多野隆介	2010	2014
WG (Paddy Soil) Chair	安藤 豊	2010	2014
Budget & Finances Committee, Member	東 照雄	2010	2014

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUSS分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本土壌肥料学会, 日本土壌微生物学会, 日本ペドロジー学会, 土壌動物学会, 農業農村工学会, 日本第四紀学会, 日本地理学会, 日本森林学会, 土壌物理学学会, 日本農作業学会環境科学会, 日本作物学会, 根研究会, 森林立地学会, 日本沙漠学会, 日本腐植物質学会, 日本熱帯生態学会, 日本熱帯農業学会など

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本土壌肥料学会	2969	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssspn/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssspn/</a>
農業農村工学会	9750	<a href="http://www.jsidre.or.jp/">http://www.jsidre.or.jp/</a>
日本地理学会	約3000	<a href="http://www.ajg.or.jp/">http://www.ajg.or.jp/</a>
日本土壌微生物学会	567	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssm/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssm/</a>
日本ペドロジー学会	565	<a href="http://pedology.ac.affrc.go.jp/">http://pedology.ac.affrc.go.jp/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名  
所属分野別委員会

IUSS分科会  
農学委員会・食料科学委員会合同

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
木村 真人	宮崎 毅	丹下 健	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	7	1

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

1) 国際土壌科学連合(IUSS)の国内対応組織として、IUSS活動の動向を国内の関連学協会等に情報提供するとともに、わが国における社会・学問の動向を踏まえ積極的にIUSSに提言していく。 2) 加えて、アジアを中心とした諸地域における土壌科学の進展のため、わが国からの情報発信に努め、諸種のシンポジウムやワークショップの立案・後援に積極的に関与する。

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/4/17	1) IUSS新役員候補者の選出と推薦準備手順を協議、2) 今期の活動計画とIUSS中間会議を踏まえた対応を確認、3) 「世界土壌パートナーシップ」アジア地域ネットワークへの対応について審議、アジア地域の土壌研究や土壌データ整備・活用の方向性に対する日本の発言力を高める活動の必要性を確認、4) IUSS中間会議での東日本大震災・放射能汚染に関する情報提供のための土壌科学分科会と連携した準備
2011/12/1	1) 委員長、副委員長、幹事を選出、2) 第21期からの申送り事項を検討、3) IUSS中間会議における2012年以降のIUSS新役員・名誉会員選挙に向けた対応を協議、4) 欧州土壌科学連合や酸性土壌の国際会議、International Plant Nutrition ColloquiumなどへのIUSS分科会委員の積極的参加を確認、5) IUSS中間会議(2012年6月韓国チェジュ市)への代表派遣候補者を選出、6) 関連学協会・他の国際対応部会や分科会との連携強化、7) IUSS分科会への連携会員の追加を確認、特任連携会員候補者を推薦
2011/9/16	1) 第21期の分科会活動総括(IUSS各種委員への更なる参加、欧米へのIUSS情報の発信不十分、ESAFS活動の発展・充実、ESAFS2011会議(スリランカ)での日本の放射能問題取組み紹介、関連学協会との連携強化)、2) IUSS中間会議に向けた新役員の推薦、IUSS名誉会員の推薦、3) 第22期への申し送り事項、4) 第22期IUSS分科会招集の呼びかけ人の選出
2010/12/21	1) 2011年度日本学術会議代表派遣候補者を協議、2) 2011年度IUSS分科会の活動方針を協議、3) IUSS分科会ホームページの充実方策(英語版)を協議、4) 2年後のIUSS役員改選に向けた推薦名簿や選挙方法の検討、5) 世界土壌科学会議(Brisbane)報告、6) 特任連携会員の任期延長の報告

2010/7/22	1) 世界土壌科学会議 (Brisbane) で審議される各議題へのわが国の対応を協議、2) 2014年韓国で開催の世界土壌科学会議へのわが国の協力内容について協議、3) IUSSと関連の深いESAFSとPAWEESの合同国際会議開催の可能性を検討
2010/1/12	1) 世界土壌科学会議 (Brisbane) への代表派遣候補者を3名推薦、2) 関連学協会、PAWEES、MARCO等へIUSS分科会ホームページとの相互リンクを依頼、3) 2014年開催予定の国際土壌科学会議 (韓国) への協力内容を検討
2009/11/13	1) IUSSホームページの立ち上げに伴う掲載内容の吟味、関連学協会への相互リンクの依頼、2) 第19回世界土壌科学会議 (2010オーストラリア) への派遣候補者について、3) 第9回ESAFS大会 (2009、ソウル) 報告
2009/4/3	1) IUSSホームページの立ち上げ、関連学協会へのリンクの方策、2) 第19回世界土壌科学会議 (2010オーストラリア) への対応、3) 2009年10月開催のESAFS大会におけるIUSS共催シンポジウム
2008/12/15	1) 委員長の選出、2) 特任連携会員 (4名) を要請、3) 各委員の分科会における役割分担、4) 関連学協会との関係、連絡方法、5) 21期における本分科会の活動

#### 日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IUSSのホームページを立ち上げ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jssspn/IUSS/>) IUSS関連の情報を掲載するとともに、関連する学協会に依頼して、学協会のホームページからIUSSホームページへリンクできるように依頼。

#### 国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1) 国際対応を周知するとともに、IUSSに関連するできるだけ広い国内学協会に所属する研究者を分科会委員とし、国内各学協会との連携促進を目指している。2) 関連する学協会のホームページとIUSSのホームページの相互リンクを確立し、IUSSに関連する国際対応を連携して実施することを目指している。

#### 特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1) IUSS Officers (2010-2014年) 推薦依頼に積極的に対応し、わが国からDivision, Working Group役員 (4名) 財務委員会委員 (1名) が当選。2) 2014年国際土壌科学会議の韓国開催を積極的に支援し韓国開催が決定。3) IUSS活動のアジアにおける充実を目的に、東・東南アジア土壌科学連合 (ESAFS)、国際水田・水環境工学会 (PAWEES)、モンスーンアジア農業環境研究コンソーシアム (MARCO) との連携を強化。3) ESAFSとIUSSの共催シンポジウムを2009年秋のESAFS大会 (韓国、ソウル) で実現。

#### 分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

2010年～2014年における各部門のChair、Vice-Chairとして、わが国から推薦した犬伏和之 (Chair, Soil Biology)、波多野隆介 (Chair, Soils and Land Use Change)、小崎 隆 (Vice-Chair, Soil Degradation)、安藤 豊 (Chair, Paddy Soil Working Group) の各氏が決定。IUSS財務委員会 (Committee on Budget and Finances) 委員に東照雄氏が決定。さらに、IUSS活動と関連の深い国際組織ESAFS、PAWEES、MARCOとの連携強化を図り、アジア地域へ日本学術会議IUSS分科会の活動を拡大。